

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護]

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成 19年 9月 14日

【評価実施概要】

事業所番号	2872600404		
法人名	社会福祉法人 真秀会		
事業所名	グループホームなごやか		
所在地	〒675-2105 兵庫県加西市下宮木町576番地 0790-49-0528		
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	〒666-0016 兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成19年7月12日	評価確定日	2007年9月14日

【情報提供票より】 (平成19年5月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 4月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	24 人	常勤7人, 非常勤	17人, 常勤換算4.7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	4階建て	2~4階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,500 円	その他の経費(月額)	28,000円(光熱水費含む)	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(5月31日現在)

利用者人数	22名	男性	2名	女性	20名	
要介護1	6名	要介護2	10名			
要介護3	3名	要介護4	3名			
要介護5			要支援2			
年齢	平均	84歳	最低	74歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	みのりクリニック
---------	----------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

中国自動車道加西インターから車で15分の山あいにあるグループホームで、デイサービスを併設している。運営者は地域住民のニーズに対応したいと新たなサービスの提供に積極的であるが、地域住民のグループホームへの理解は十分とは言えず、日常生活における地域との交流は今一歩である。運営推進会議を活用して、地域の理解と協力が得られる取り組みを期待したい。職員は利用者それぞれ役割を依頼し、できることをしてもらえよう支援を心がけ、行事や人々との関わりの中で生き生きと過ごせるホームを目指している。本人、家族の希望で、医師との連携のもと看取りをおこなった体験から、終の居場所としてのホームを目指している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	・前回評価の課題に則して、理念をわかりやく文書で掲示する・手すりの位置の変更・記録の整備等を行った。利用者による筆書きの理念が掲げられていた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連事項:第三者4)
	・今回の評価は各ユニット担当の職員が分担した。取り組みを通して、ケアに関する毎日の業務の振り返りや見直し再確認できた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	・第一回目の会議で、グループホームの紹介と地域密着型サービスとしての役割について説明したが、地域側の理解が弱く、二回目は未だ開けていない。事業所としては次回の会議で、評価結果の報告を予定している。開催に向けての意欲的な取り組みが求められる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	・家族等へ利用者の暮らしぶりや金銭管理の報告等を毎月行っている。家族等からの苦情等が出しやすいように外部の専門家3名による苦情委員会や家族会の開催しているが、これらの試みが、安心して苦情が言える場となっているか、また苦情等が事業所の運営に反映されているか、再考の余地があるのではないかと。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	事業所の夏祭りは地域に開放している。地域の行事に利用者が参加して季節の収穫や芝居を楽しむ等、地域との接点を持つ努力をしている。さらに、町内会や老人会に加入する等、日常生活においても地域との関わりが密になる取り組みを期待したい。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・利用者が筆書きした基本理念が事業所内に掲げられている。利用者一人ひとりに意欲を持ってもらえるよう理念に基づく支援を心がけている。		・これまでの理念に加えて、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容を盛り込んだ理念にすることが望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・玄関、各ユニットに理念を掲げている。毎月の全職員対象の業務カンファレンスで理念に基づいた話し合いをして、利用者一人ひとりのできることを大切に、機能訓練や趣味、特技を活かす支援を目指している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・事業所の夏祭りは地域に開放し、地域の行事に利用者が参加する等地域との接点を持つ努力をしているが、日常生活でも地域の一員になる取り組みが望まれる。		・町内会や老人会に加入する等、地域活動や地域の人々との関わりを積極的に持つ取り組みを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・理念の掲示、手すりの位置の変更、ケアプランに添った記録の整備等前回の第三者評価結果を活かす取り組みを行った。今回の自己評価は各ユニットの職員が担当した。自己評価を通して、ケアに関する毎日の業務の振り返りや見直しができる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・昨年11月に第一回の会議を開いた。グループホームの紹介と地域密着型サービスとしての役割について説明した。地域の理解が弱く第2回目は未だ開けていない。</p>		<p>・地域の協力が得られるよう事業所側から積極的に働きかけ、利用者が地域で暮らし続けるための基盤作りに運営推進会議を活用することが有効だと考えられる。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>・利用者の課題解決のための相談等を通して、市町村の理解や支援を得るよう努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・介護計画兼報告書で毎月、利用者の生活の様子や金銭管理等を報告している。家族等来訪時には職員又は管理者から利用者の暮らしぶりや認知症について説明している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・外部専門家3名による苦情委員会を設けている。家族会は年2回開催している。</p>		<p>・苦情委員会が認知症にも詳しくて安心して意見や苦情がいえる場であるか、家族会が家族間の親睦だけでなく家族同士で意見が出せる場であるか等の検討が望まれる。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・管理者は職員交代がある時は利用者との関係を考慮して引き継ぎ期間(1ヶ月)を設け、徐々に移行するように配慮している。また職員が定着できるような職場環境、職員の希望等への配慮に努めている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・運営者は研修に積極的で、職員に研修の情報や参加を勧めている。認知症ケア、口腔ケア、機能訓練等の外部研修に自主的に参加している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・他市と合同のグループホーム連絡協議会に定期的に職員が1～2名出席し、情報交換、意見交換、各施設の工夫等を学びあっている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・利用から1週間は利用前の生活リズムにできる限り合わせ、本人に寄り添っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	・利用者の得意なことを発揮できる場を作り意欲的になってもらうよう支援している。味付けや調理の工夫等を教えてもらったり、手伝ってもらったりしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>・利用者と職員の会話、利用者同士の雑談や日常生活の中から利用者の表情を観察して、本人の思いや意向を把握している。困難な場合は選択肢やメモ書き等で確認している。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>・利用者や家族と話し合いを重視して、介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>・6ヶ月に1回定期見直しをし、状態変化のある時や毎月開くケアカンファレンスで気づいた場合は随時見直しをしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>・1階で行っている併設のデイサービスを随時利用している利用者が数名おり、その日のレクリエーションに参加するのを楽しみにしている。必要に応じて個々の外出や通院介助の支援も行っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>・日常の受診はかかりつけ医で受診している。検査や夜間等緊急時は、市内の大きな病院で対応している。症状によっては往診も考慮しながら家族と相談している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>・入居時、口から物が摂取できない状態になった場合は対応できない旨を説明している。対応が困難になった場合は、出来るだけ早い段階で家族、医師に相談しながら希望に沿うよう努めている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>・プライバシーに関しては特に大きな問題はみられないが、居室表札はフルネームが掲げられている。その取り扱いに対しては、検討の余地がある。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>・一日の起床から朝昼晩の食事は、生活の基本ベースとしているが、その中でも一人ひとりのその日の体調をみながら自由に過ごしてもらえよう努めている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>・利用者と職員は調理、食事の準備や後片付けは一緒に行っているが、職員の食事は個人持ちである。月1回のバイキングは、職員も一緒に楽しんでいる。</p>		<p>・利用者とともに食事を楽しむことは、調理等の作業を協力し、出来たものを一緒に食べるという一連の流れを通し、その結果、会話がはずみ一体感が生まれるのではないだろうか。検討が望まれる。</p>
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>・週に2回の入浴を基本としている。入浴時間は利用者の希望に応じ、体調のすぐれない人や、入浴したくない人については、清拭や足浴、シャワー浴など個々の状態に合わせた対応に心がけている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>・パターゴルフやゲートボールをする人、ベランダでの菜園作りを楽しみにしている人など、一人ひとりがその日のしたいことを支援している。一人で、あるいは複数でと時々に応じて過ごせるよう努めている。</p>		
25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外にかけられるよう支援している</p>	<p>・その日の買い物は、できるだけその日に実行できるよう努力している。近くの神社などホームの周りを散歩したり、屋上菜園での作業など日に一回は戸外に出るよう支援している。温泉などの特別な外出は、家族の協力により実現している。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>・フロアから利用者が出る場合は、職員がさりげなく同行するようにしている。居室確認を常時することで所在を把握するよう努めている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>・年2回、夜間想定も兼ねた防火訓練を行っている。全職員、利用者ともども訓練を通じて日ごろの意識づけにもつなげている。ホームのある地区ごとに青年消防団が結成されており、地域全体での支援体制は整えられている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>・食事・水分量は毎日チェックしている。食事量は盛り付け時に調整し、水分量は本人、家族と相談しながら好みのものを飲んでもらえるよう配慮している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・居間のソファのスペースは、テレビを観たり読書コーナーにもなっている。廊下の一角は畳みで和風のしつらえになっており、冬はコタツで過ごすことができる。ベランダでは花や野菜の栽培もされている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・使い慣れたタンスや小物に囲まれた居室、手作り作品を自分の好みに飾りつけている人など、個々に居心地よく居室づくりをしている。</p>		

 は、重点項目。